

研究タイトル: 地方都市における地域資源(空き家等も含む)を活かしたまちづくりや建築デザイン



氏名:	小椋 弘佳 / OGURA Hiroka	E-mail:	ogura@yonago-k.ac.jp
職名:	准教授	学位:	博士(工学)
所属学会・協会:	日本建築学会, 日本都市計画学会		
キーワード:	都市・農村計画		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方都市や中山間地域を対象とした、土地や空き家の利用・管理に関する研究と、その対応策の提案 ● まちのパブリック空間の利用・管理に関する研究と、その対応策の提案 ● 地域に根ざした建築のあり方の提案 		

研究内容: 人口減少社会における持続的なまちづくりのための仕組みづくりや建築デザイン

現在、地方都市の多くの地域では、人口・世帯減少などの問題を抱え、地域維持が困難な状況にあります。地域の持つ独自の資源、あるいは地域固有の価値を見だし、地域再生に活かすことが必要になります。そのような地域再生の方策を考える上での基礎的調査研究を進めています。また、調査研究から得られた知見に基づき、実際の計画を提案します。主な研究や活動は以下の通りです。

【1】 空き家などの遊休資源の実態に関する研究

本研究は、空き家を地域資源と捉えて、その利活用や適正な管理に向けた課題を明らかにし、その方策を考える上での基礎的資料をまとめています。主にフィールドワークによる調査を実施します。

- ① 中山間地域における地域コミュニティによる複数空き家の活用支援に関する研究
-NPO 法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会のサブリース事業を事例として-(2019 年度から)
- ② 米子市中心市街地における空き町家の立地と管理実態に関する研究(2022 年度から)
- ③ 境港市における住環境の特徴と空き家分布及び整備実態の関係性に関する研究(2022 年度から)

【2】 まちのパブリック空間(公園・駅前広場など)の整備手法や利活用に関する研究

現在日本の地方都市では「ウォークアブルシティ」を目指したまちづくりが注目されています。まちなかの拠点となる施設や空間が連なるメインストリート歩行者中心の空間に改編することで面的な中心性を創り出そうとする動きが進んでいます。本研究室では、そのような整備を進める上での基礎的資料作成やケーススタディを進めています。

- ① 地方都市における駅前広場の空間的特徴と整備手法に関する研究(2019 年度から)
- ② 地方都市ショッピングセンターにおける地域開放を目的としたパブリックスペースの設置・利用実態に関する研究(2021 年度から)
- ③ 境港市水木しげるロードにおける地域住民との合意形成を重視した街路再整備手法に関する研究(2022 年度から)
- ④ 全蓋式アーケード商店街における広場化整備プロセスに関する研究 -米子市法勝寺・元町通り商店街と福山市本通・船町商店街のケーススタディ (2018-2019 年度)

研究内容： 人口減少社会における持続的なまちづくりのための仕組みづくりや建築デザイン

【3】地域の自治体や企業、団体との共同プロジェクト

山陰地方の自治体や企業、団体と協同し以下のようなプロジェクトに取り組んでいます。

- ① 米子駅周辺のウォーカブルなまちづくりを目指した公園リデザイン(2022 年度)
専攻科の授業にて、米子市市内の地区公園である目久美公園のリデザイン案の立案を行った。
- ② 史跡米子城跡サイン整備調査研究事業(米子市受託研究)(2021 年度)
米子市からの受託研究の一環として、史跡米子城跡サインデザインルールブック制作を、専攻科の授業にて実施した。また、実際に設置するサインのデザインも合わせて実施した。
- ③ 鳥取ダイハツ販売株式会社店舗(鳥取店、米子西店)内装デザイン(2021 年度、2019 年度)
研究室活動として、鳥取ダイハツ販売株式会社と白兎設計との共同事業として、店舗内装デザイン案を提案した。
- ④ JR 大山口駅舎新築アイデアコンテスト実施補助 及び 新築計画案提案(2018 年度、2019 年度)
大山町が実施するアイデアコンテスト開催に向けた補助を行った。また、最優秀賞受賞案をもとに、研究室の活動として、実現に向けた設計案を作成した。



史跡米子城跡サイン整備調査研究事業

店舗内装デザインプロジェクト

JR 大山口駅舎新築アイデアコンテスト

担当科目	創造設計演習(専攻科), 設計製図, 建築計画
過去の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡米子城跡サイン整備調査研究事業(米子市受託研究、研究期間:2021 年度) ・地方商業空間に生み出されるパブリックスペースの地域拠点としての役割と発展性の解明(科学研究費助成事業若手研究【21K14330】, 研究期間:2021-2024 年度) ・居住環境向上を目指した低・未利用地の共同管理の実態分析と体制づくり(科学研究費助成事業若手研究 B【17K14789】, 研究期間:2017-2020 年度) ・商店街の公園化によるまちのリノベーション戦略 -とっとり方式の定式化 -(鳥取県環境学術研究等振興事業 地域振興部門, 研究期間:2017-2019 年度)
近年の業績 (研究・教育論文、特許含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・渡下宗太郎・小椋弘佳・金澤雄記:近世城郭の活用に向けた取り組みと整備の実態に関する研究 -西日本の城郭を事例として-,日本建築学会技術報告集 巻号 71,pp.424-429,2023, 査読あり ・いんしゅう鹿野まちづくり協議会著:地域の未来を変える空き家活用,ナカニシヤ出版, 2021.2 (小椋担当ページ,第二部第二章まち協による空き家活用の全体像,pp.159-173) ・小椋弘佳・田川桜・細田智久:大山町A地区における空き家の状況と活用可能性に関する研究,日本建築学会技術報告集第 26 巻 第 64 号, pp.1120-1125, 2020, 査読あり ・小椋弘佳・樋口秀:国立公園内に位置する大山寺集落と御岳山山上集落の土地利用管理に関する研究,日本建築学会計画系論文集, Vol.81 No.722,pp.921-931,2016,査読あり ・小椋弘佳・樋口秀・細田智久・熊谷昌彦:国立公園の利用促進等に向けた集団施設地区の課題と取り組み実態に関する研究 -集団施設地区内の集落規模に着目して-,日本建築学会計画系論文集, Vol.80 No.716, pp.2261-2271, 2015, 査読あり